

第2次十和田市男女共同参画社会推進計画後期実施計画 平成29年度における進捗状況(基本目標Ⅳ)

No.	基本目標	重点項目	施策の方向	平成29年度における事業の実施状況及び評価						参考値 (28年度)	目標値 (33年度)	次年度の方策	担当課	備考	
				事業名	内容	実施状況(実績)	指標名	現状値	達成度						
66	Ⅳ 健康で充実した生活づくり	1 「女と男」がと もにつく る家庭生 活	1 家庭生活 における 男女共同 参画の推 進(※)	両親学級等の開催 (ほっとマミーサロ ン)(※)	家事・育児を母親だけではなく、父親 も担えるよう、妊婦とその家族に対して 適切な助言や情報	妊婦夫婦を対象に、沐浴の仕方、妊婦体験、参加者同士の交流等 を実施した。 ○ほっとマミーサロン「パパの日」 年3回 参加者 夫婦15組(30人)	開催回数 参加者数	年3回 夫婦15組 30人	3	24 (年4回 夫婦86組 172人)	年6回 夫婦45組 90人	年3回 夫婦30組 60人	ほっとマミーサロンの周知 を母子健康手帳交付時、妊婦 訪問、広報等で積極的に実施 する。ほっとマミーサロン 「パパの日」を年3回継続し て実施する。	健康増進課	
67			2 男性の家 庭参加と 生活自立 への支援 (※)	家庭生活に関する学 習機会の提供(※)	家庭における家事への男女共同参画を 推進するため、「男性のための教室」(2 講座)を開設し、実生活に生かしながら 家族の食事や健康に気遣う心を育てるよ う支援する。	普段料理をしない男性が料理を学ぶことにより、自分も含め家族 の食事や健康に気遣う心を培うことを目的に、男性の料理教室を2 回開催した。 ○男性の料理教室(そばうち) 参加者 12人 ○男性の料理教室(ハンバーグ) 参加者 7人	参加者数	19人	4	24 (18人)	21人	22人	引き続き、広報に掲載する など、事業の周知に努める。 毎年類似した講座内容となる ため、講師と相談の上、内容 を検討する。	スポーツ・生涯学習課	
68			家庭生活に関する学 習機会の提供(※)	家庭における家事への男女共同参画を 推進するため、地域人材講座を開設し、 男女共に食に対する関心・意欲を高め実 生活に生かせるように支援する。	食に対する関心・意欲を高め実生活に生かせるよう地域の人材を 活用し、身近な郷土料理の講座を開設した。 ○「ハレの日の赤飯教室」 参加者 16人(女性のみ) ○「つき返し団子作り教室」 参加者 16人(女性のみ) ○「けいらん作り教室」 参加者 16人(女性のみ) ○「長いもすいとん作り教室」参加者 16人(うち男性 2人) ○「豆しとぎ作り教室」 参加者 16人(女性のみ)	料理教室への男性の 参加者数	2人	2	24 (4人)	14人 (96人 中)	16人	男女共に食に対する関心・ 意欲を高め実生活に活かす きっかけとなるよう、地域の 人材を活用し身近な郷土料理 の講座を開設する。 また、講座について広報・ ブログ等で広く周知する。	十和田湖公民館		
69		2 生涯を通 じた「女 と男」の 健康支援	1 母子保健 の充実	母子保健事業の推進 (各種教室の開催) (※)	乳幼児や妊婦の健康増進と、保護者の 育児不安の解消及び虐待防止を図ること を目的として、各種教室を開催する。教 室には父親の参加も促す。	乳幼児期の発育・発達の遅れや病気の早期発見、早期治療及び順 調な発育ができるように乳幼児健診を実施した。 ○4か月児健康診査 年12回 受診者360人 受診率96.0% ○1歳6か月児健康診査 年12回 受診者413人 受診率97.4% ○2歳児発達健康診査 年12回 受診者408人 受診率95.8% ○3歳児健康診査 年12回 受診者429人 受診率98.4%	1歳6か月児健診受 診率	97.4%	4	24 (96.3% )	96.0%	100%	乳幼児健診を継続して実施 する。引き続き、健診受診率 の向上と未受診者の把握に努 める。	健康増進課	第2次十和田市総合計画 第1期実施計画関連事業
70			保健協力員による母 子保健活動	母子保健事業に係る協力	4か月児健康診査及び2歳児発達健康診査において、保健協力員 が受付や身体計測の補助等の協力を通して、最近の母子の状況を理 解する。 ○保健協力員による母子保健事業協力 協力回数 24回 協力者数 47人	母子健康事業協力者 数	延47人	4	24 (延48 人)	延48人	延48人	地域で暮らす母子を見守 り、声かけができる保健協力 員が増えるように、次年度も 継続して実施する。	健康増進課		
71			妊娠期からの切れ目 のない子育て支援	妊娠期から子育て期までの切れ目の ない相談・支援体制を整え、安心して妊 娠・出産・育児ができる環境づくりを推 進することを目的として、助産師を活用 した訪問・相談事業を実施し、子育て支 援体制の充実を図る。	妊娠中から相談しやすい関係づくりのため、すべての妊婦を対象 に助産師による家庭訪問等の支援を実施した。連絡がとれないまま 出産に至る場合もあったため、妊婦家庭訪問等実施率は、91.2%で あった。 また、妊産婦の孤立感や育児不安の軽減のため、助産師による個 別相談や親同士の交流等の支援を実施した。 ○妊婦家庭訪問等実施 対象者 362人 実施数 330人 (内訳 家庭訪問 258人、電話支援 72人) ○ほっとマミーサロン(個別相談と交流) 実施回数 21回 支援延べ数 137件 (内訳 妊婦 22件、産婦 57件、乳児 58件)	妊婦家庭訪問等実施 率	91.2%	4	29	—	100%	妊婦家庭訪問及びほっとマ ミーサロンについて、広報や 母子健康手帳交付時等に積極 的に周知し、継続して実施す る。また、ほっとマミーサロ ンは、会場変更に合わせて、回 数を増やして実施する。	健康増進課	新規事業 第2次十和田市総合計画 第1期実施計画関連事業	

第2次十和田市男女共同参画社会推進計画後期実施計画 平成29年度における進捗状況(基本目標Ⅳ)

No.	基本目標	重点項目	施策の方向	平成29年度における事業の実施状況及び評価						参考値 (28年度)	目標値 (33年度)	次年度の方策	担当課	備考	
				事業名	内容	実施状況(実績)	指標名	現状値	達成度						
72	Ⅳ 健康で充実した生活づくり	2 生涯を通じた「女と男」の健康支援	1 母子保健の充実	特定不妊治療支援	子どもを産みたいと思う夫婦を支援することを目的として、指定医療機関で受診した保険適用外の特定不妊治療に要する費用の一部を助成する。	子どもを産みたいと思う夫婦を対象に、指定医療機関で受診した保険適用外の特定不妊治療に要する費用の一部を助成した。 また、市広報やホームページ活用し、事業を周知した。 ○助成件数 46件(助成実人数 30人) ○助成額 3,708千円(平均助成額80,608円) ○広報とわだ9月号に特集記事を掲載 ○市ホームページに助成事例を掲載	助成件数	46件	3	29	58件	65件	現状のまま継続し、変更後の目標値に向けて、引き続き事業の周知に努める。	こども子育て支援課	新規事業 第2次十和田市総合計画 第1期実施計画関連事業
				国保妊産婦医療費十割給付	国民健康保険被保険者である妊産婦の健康保持増進を図るため、医療費(外来のみ)を10割給付し、出産環境の向上に努める。	国民健康保険被保険者である妊産婦に対し、「妊産婦十割給付証明書」を交付し、外来医療費を給付した。 ○交付件数 57件 うち償還払い 2件	交付率	100%	5	29	100%(交付件数67件うち償還払い4件)	100%	引き続き、関係課と連携し、国民健康保険被保険者である妊産婦に対し、「妊産婦十割給付証明書」を適正に交付する。 同証明書が適用とならない医療機関の場合は、償還払いにより給付する。	国民健康保険課	
74	Ⅳ 健康で充実した生活づくり	2 生涯を通じての健康づくり	2 生涯を通じての健康づくり	特定保健指導事業	特定健康診査の結果による対象者に対して、特定保健指導(積極的支援・動機付け支援)を実施した。また特定保健指導の対象外の方に対して、訪問支援等による生活習慣改善のための保健指導や運動指導を実施した。 平成29年度から「まちなか健康相談」を開催し、市民交流プラザでの休日開催日に合わせて、保健指導が受けられる機会を設けた。 ○積極的支援(25回) 対象者 90人(修了者 24人) ○動機付け支援(25回) 対象者 297人(修了者 102人) ※青森県総合健康センターへの委託により実施 ※積極的支援は3カ月、動機付け支援は6カ月の個別支援等で修了者 ○生活習慣改善のための保健指導 223回(301人) (内訳 面接 187人、電話 33人、まちなか健康相談 9人)	特定保健指導実施率	32.6%(暫定)	3	29	29.0%	50%	地域の状況に合わせた、開催場所や時間の設定など、委託先と協議し実施方法を検討する。健診は異常の早期発見だけでなく、生活習慣を見直す機会として個々が自覚し改善につながるよう、市民へ働きかける。	健康増進課		
75				健康寿命の延伸	市民の主体的な健康づくりを促進することを目的として、各種健康事業を実施することにより、市民の各種健診等の受診率向上及び運動習慣の定着を図る。 ○各種健康事業 集団健康診査 年間52日(保健センター及び各地域集会場等) 個別方式 随時(市内23医療機関) 人間ドック 年間171日(十和田市立中央病院) 特定健診 対象者 12,775人 受診者 4,640人 受診率 36.3% 後期高齢者健康診査 対象者 8,486人 受診者 1,869人 受診率 22.0% 胃がん 対象者 24,919人 受診者 4,078人 受診率 16.4% 肺がん 対象者 24,919人 受診者 5,946人 受診率 23.9% 大腸がん 対象者 24,919人 受診者 6,482人 受診率 26.0% ※対象者数確定は10月以降	特定健康診査受診率	36.3%(暫定)	3	29	37.2%	52%	特定健診の結果、生活習慣病対象者のうち糖尿病の占める割合が30%を超えている。さらに、青森県は糖尿病死亡率が全国最悪であるという結果も踏まえ、早期に予備群を発見するために、積極的に特定健診の受診を呼びかける。 また、インターネット検診予約システムの本格稼働により、インターネットで予約できるなど、受診者の利便性向上を図る。	健康増進課	第2次十和田市総合計画 第1期実施計画関連事業	
76	Ⅳ 健康で充実した生活づくり	2 生涯を通じての健康づくり	2 生涯を通じての健康づくり	こころの健康づくり	自殺の現状やうつ病、ゲートキーパーとしての役割を学び、ゲートキーパーとして実践できる人材を育成するための講座を実施した。 また、傾聴の大切さを学び、家庭・職場等で身近な人に実践できる人材の育成とボランティア活動への活用を図ることを目的に講座を実施した。 ○ゲートキーパー養成講座 ・市民 5回 参加者 53人(延222人) ・理美容組合 2回 参加者 67人 (参考)平成28年度までの受講者数 269人 ○傾聴講座 1回 参加者 31人 ○こころの健康講座 1回 参加者 73人 ○地域健康教室 2回 参加者 83人 ○さわやか健康講座 1回 参加者 37人 ○企業への健康講座 2回 参加者 20人	ゲートキーパー研修受講者数	389人	4	27(204人)	269人	453人	引き続き、ゲートキーパー養成講座を実施し、こころの健康づくりに努める。 また、前年度ゲートキーパー養成講座の参加者に対してフォローアップ講座を実施する。	健康増進課	第2次十和田市総合計画 第1期実施計画関連事業	

第2次十和田市男女共同参画社会推進計画後期実施計画 平成29年度における進捗状況(基本目標Ⅳ)

No.	基本目標	重点項目	施策の方向	平成29年度における事業の実施状況及び評価					指標設定年度	参考値 (28年度)	目標値 (33年度)	次年度の方策	担当課	備考	
				事業名	内容	実施状況(実績)	指標名	現状値							達成度
77	Ⅳ 健康で充実した生活づくり	2 生涯を通じた「女と男」の健康支援	2 生涯を通じての健康づくり	壮年期からの健康づくり事業(食生活の改善・地域ぐるみの健康づくりを含む)	健康増進法に基づき、壮年期からの健康づくり事業を推進し、疾病の早期発見・重症化予防に努めることにより、健康寿命の延伸に資する。	生活習慣病予防などについて、正しい知識の普及を図り、健康教養を高めるため、健康教育や健康相談、家庭訪問等を実施した。 ○健康教育 63回 参加者 3,134人 ○公民館まつりでの健康教育 4回 参加者 787人 ○栄養士による個別相談 12回 参加者 21人 ○まちなか健康相談 20回 参加者 84人 ○生活習慣改善のための保健指導(訪問、電話、来所) 985人に実施 ○平成28年全死亡数 815人 うち生活習慣病(悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧疾患)による死亡数 443人	全死因に占める生活習慣病の割合	54.4% (H28年度)	29	53.2% (27年度)	引き続き、健康教育・健康相談・家庭訪問等を実施し、疾病の早期発見・重症化予防に努める。	健康増進課	参考データ		
78				壮年期からの健康・体力づくり	壮年期からの健康・体力づくりのため、スポーツ教室、大会等を実施する。	壮年期からの健康・体力づくりのため、リフレッシュ・スポーツ教室を市総合体育センターにおいて、午前、午後の1日2回(毎週水曜日)開催した。 ○リフレッシュ・スポーツ教室の開催回数 58回(全29日) 参加者数 1,369人	リフレッシュスポーツ教室の開催回数と参加者数	延58回 延1,369人	4	29	延56回 延1,712人	延56回 延1,680人	壮年期からの健康・体力づくりのため、特に若い世代の需要に応じた対応を検討する。	スポーツ・生涯学習課	
79				「市民ひとり1スポーツ」の推進	市民のスポーツに接する機会の充実、スポーツ活動への参加意識の醸成を図ることを目的として、ライフステージに応じた健康づくりを進めるため、各種スポーツ事業を実施する。	市民のスポーツに接する機会の充実を図るため、各種スポーツ事業を実施した。 ○10月8日(日) 第22回とわだ駒街道マラソン大会 参加者 1,748人(男性1,165人、女性583人) うち市内の参加者 640人(男性381人、女性259人) ○7月9日(日) 第13回十和田市総合体育大会(前期) 実施競技7種目 参加者 825人 ○11月12日(日) 第13回十和田市総合体育大会(後期) 実施競技7種目 参加者 574人 ○12月3日(日) 第13回市民屋内大運動会 参加者 380人	駒マラソン・市総合体育大会・市民屋内大運動会の参加者数	延3,527人	4	29	延3,503人	延3,300人	マラソン大会の参加者数からは、女性の競技種目への参加が比較的小さいと思われるため、参加しやすい環境づくりを検討する。 市総合体育大会、運動会についても、参加者数を維持、増加できるように、不参加であった地区の参加を促す。	スポーツ・生涯学習課	第2次十和田市総合計画第1期実施計画関連事業
80				健康づくり団体への活動支援	健康づくりに関するボランティア・自主グループの活動に対し、情報提供等の活動支援を行う。	健康づくりに関するボランティア・自主グループの活動に対し、必要に応じて支援を実施した。 また、市民に対しては、ボランティア団体の活動紹介等を行った。 ○こころの会 紙芝居を通して「こころの健康」について普及・啓発 ○駒の会「オアシス」 月1回文化センターで傾聴・交流活動 ○傾聴サロンとわだ「クローバー」 月1回保健センターで傾聴活動 ○こころの広場「ルピナス」 月2回勤労青少年ホームで傾聴活動 ○よるこびの会 がん予防活動 ○豆しとぎの会 健康づくりに関する活動	団体数	6団体	5	29	5団体	5団体	自主的な活動を継続できるように、情報提供や活動についての相談支援を継続して行う。	健康増進課	
81		3 自立と安定した生活への支援	1 高齢者や障害者等の自立支援体制の充実	高齢者講座「遊友ひがし」	再掲で対応		-			-				スポーツ・生涯学習課	
82				高齢者事業「ろまん大学」	高齢者が安心して暮らせる地域社会の形成を図るため多様な学習機会の提供を通じて、高齢化の進展による社会変化の理解を深めながら、社会を構成する重要な一員として、相互の連携を強めてもらい、自立した生活を営むことを目的とする。	概ね60歳以上の方を対象に、講話、健康講座、野外学習などの講座を年間15回開催した。 ○参加者 41人(うち男性 8人、女性 33人)	開催回数と参加者数	15回 41人	5	29	15回 40人	15回 40人	新たな受講生を増やすため、チラシ・広報等で広く周知する。	十和田湖公民館	新規事業

第2次十和田市男女共同参画社会推進計画後期実施計画 平成29年度における進捗状況(基本目標IV)

No.	基本目標	重点項目	施策の方向	平成29年度における事業の実施状況及び評価					参考値 (28年度)	目標値 (33年度)	次年度の方策	担当課	備考		
				事業名	内容	実施状況(実績)	指標名	現状値						達成度	
83	IV 健康で充実した生活づくり	3 自立と安定した生活への支援	1 高齢者や障害者等の自立支援体制の充実	高齢者の介護予防	<p>地域の関係者と連携を図りながら、地域で興味のあるテーマを取り入れ「地域いきいき教室」を実施した。 また、街なかには高齢者が気軽に立ち寄れる場として「街なかいきいき交流事業」を開催し、交流や介護予防体操等をテーマに実施した。</p> <p>元気な高齢者の介護予防に取り組み、自立した生活を継続できるよう支援することを目的として、地域住民の交流や介護予防に関する知識を深めるため、地域の集会所や温泉施設を活用した介護予防教室などを開催する。</p>	<p>「湯っこでいきいき交流事業」では通常の湯っこの活動のほか、筋トレ教室を週1～2回、アネックスでの運動体験企画を年1回、観光企画を年1回実施した。</p> <p>○湯っこでいきいき交流事業 実施回数 343回 利用者 3,796人(うち女性 3,433人)</p> <p>○街なかいきいき交流事業 実施回数 41回 利用者 980人(うち女性 963人)</p> <p>○湯っこでいきいき交流事業 実施回数 559回 利用者 12,906人(うち女性 12,337人) 登録者 460人(うち女性 440人)</p>	介護予防教室等の実施回数	介護予防343回 湯っこ559回	4	24 (介護予防324回 湯っこ494回)	介護予防366回 湯っこ599回	介護予防350回 湯っこ500回	<p>事業への男性参加者が少ないため、男性が興味をもつような企画を検討する。 また、男性が多く参加する老人クラブ連合会総会や町内会総会などの場を活用し、PRを実施する。</p>	高齢介護課	第2次十和田市総合計画 第1期実施計画関連事業
84				十和田いきいき介護支援ボランティアポイント	<p>高齢者自身の社会参加を通じた介護予防を推進するとともに、地域住民の交流や健康寿命の延伸を促進することを目的として、高齢者が行ったボランティア活動にポイントを付与することで、社会参加を積極的に奨励・支援する。</p>	<p>高齢者の介護予防及び社会参加を促すため、高齢者が行ったボランティア活動にポイントを付与する「十和田いきいき介護支援ボランティアポイント事業」を実施した。</p> <p>○十和田いきいき介護支援ボランティアポイント事業 登録者 59人 説明・研修会 年3回実施(5月、9月、11月)参加者 71人</p> <p>○事業登録・活動推進のためのアンケート調査実施 ・個人ボランティア対象(57人回答/59人中) 【活動の満足度】満足:55.6%、やや満足33.3%、やや不満11.1%</p> <p>○受け入れ施設対象(20施設回答/26施設中) 【活動実績】あり:45%、なし:55%</p>	介護支援ボランティアポイント事業登録者数	59人	4	29	37人	70人	<p>説明・研修会に参加し事業登録を行ったが、ボランティア活動につながらない場合もある(30人/59人中)ため、説明・研修会を年9回開催、市広報・駒らんメール等の情報提供により周知を行い、高齢者の介護予防及び社会参加を促す。</p>	高齢介護課	新規事業 第2次十和田市総合計画 第1期実施計画 【参考】 第2次十和田市総合計画 【成果指標】 介護支援ボランティア ポイント事業参加者数 【目標値】120人
85				新しい介護予防・日常生活支援(要支援者自立パワーアップ事業)	<p>地域の実情に応じた多様なサービスを提供することにより、要支援状態の維持、改善を図ることを目的として、リハビリ専門職の指導のもと、運動機能向上プログラムの実施により、自立支援を推進する。</p>	<p>要支援者及び基本チェックリストにより、事業対象と判断された方を対象に、市内4カ所の通所リハビリ事業所でリハビリ専門職の指導のもと、週1回3カ月間運動機能向上プログラムを実施した。 また、事業の周知のため、事業内容が分かりやすい写真や事業所の対応時間などを掲載したチラシを作成し、配布した。</p> <p>28年度「健康とくらしの調査」から把握した運動機能低下者を訪問し、事業の紹介を行った。また居宅介護支援事業所などの会議の際、事業に関する説明とPRを行った。</p> <p>○要支援者自立パワーアップ事業 参加者 3人(延35人) うち身体機能改善者 2人</p> <p>○事業の周知 ・運動機能低下者への訪問 120件 ・居宅介護事業所会議での説明 2回 ・実施事業所対象の研修会の実施 2回</p>	事業参加者数	3人	2	29	—	30人	<p>介護予防普及活動などの機会に、事業の紹介を行う。また、地域介護予防活動支援事業や介護予防把握事業などの事業を通して、地域住民に対し個別に事業の紹介・周知を行う。</p>	高齢介護課	新規事業 第2次十和田市総合計画 第1期実施計画関連事業
86				新しい介護予防・日常生活支援(要支援者自立支援事業)	<p>地域の実情に応じた多様なサービスを提供することにより、要支援状態の維持、改善を図ることを目的として、整骨院・フィットネスクラブなどで、運動機能向上プログラムを実施し自立支援を推進する。</p>	<p>要支援者及び基本チェックリストにより、事業対象者と判断された方を対象に、市内17カ所の整骨院と2カ所の健康増進施設で週1回3カ月間運動機能向上プログラムを実施した。 また、事業の周知のため、写真や事業所の対応時間などを掲載したチラシを作成し、配布した。</p> <p>28年度「健康とくらしの調査」から把握した運動機能低下者に対し、訪問し、事業の紹介を行った。また居宅介護支援事業所などの会議の際、事業に関する説明とPRを行った。</p> <p>○要支援者自立支援事業 参加者 13人(延140人) うち身体機能改善者 11人</p> <p>○事業の周知 ・運動機能低下者への訪問 120件 ・居宅介護事業所会議での説明 2回 ・実施事業所対象の研修会の実施 2回</p>	事業参加者数	13人	3	29	—	30人	<p>介護予防普及活動などの機会に、事業の紹介を行う。また、地域介護予防活動支援事業や介護予防把握事業などの事業を通して、地域住民に対し個別に事業の紹介・周知を行う。</p>	高齢介護課	新規事業 第2次十和田市総合計画 第1期実施計画関連事業

第2次十和田市男女共同参画社会推進計画後期実施計画 平成29年度における進捗状況(基本目標Ⅳ)

No.	基本目標	重点項目	施策の方向	平成29年度における事業の実施状況及び評価						参考値 (28年度)	目標値 (33年度)	次年度の方策	担当課	備考	
				事業名	内容	実施状況(実績)	指標名	現状値	達成度						指標設定年度
87	Ⅳ健康で充実した生活づくり	3 自立と安定した生活への支援	1 高齢者や障害者等の自立支援体制の充実	福祉サービスに関する情報提供	「障がい者のしおり」「生活保護のしおり」を作成し、福祉サービスに関する情報を提供する。	身体、精神、知的障がいを抱える方、生活保護について相談に訪れた方に対し、利用可能なサービス、制度について記載された小冊子やパンフレットを配布し、当該者が必要とする福祉サービスについての情報を提供した。 ○障がい者のしおり 480回 ○生活保護のしおり 1,002回	各種しおりの配布回数	1,482回	5	29	900回	2,000回	制度改正等に伴う情報の修正等、各しおりに関する情報を適時更新しながら、適切な福祉サービスについての情報を提供する。	生活福祉課	
88				自立支援給付及び地域生活支援	障がい者が自立した生活を営むことができるよう、福祉サービスの向上に努めることを目的として、介護給付、自立支援医療等及び補装具を給付するとともに、相談事業、日常生活用具給付など、利用者の状況に応じた各種事業を実施する。	障がいの種類や程度、居住の状況、サービスの利用の意向及びサービス等利用計画案を踏まえ、介護給付、自立支援医療等及び補装具を給付するとともに、相談事業、日常生活用具給付など、利用者の状況に応じた各種事業を実施した。 ○自立支援給付利用者 1,174人 介護給付 408人、訓練等給付 405人 自立支援医療(うち身体 224人)、補装具ほか 137人 ○地域生活支援事業利用者 1,135人 相談支援 380人、日常生活用具給付 204人 地域活動支援センター 463人 福祉ホームほか 福祉ホーム 30人、成年後見 3人 移動支援 28人、職親 0人、日中一時 11人 免許取得 1人、訪問入浴 4人 自動車改造 0人、手話 11人	利用者数	1,174人 地域生活支援 1,135人	5	29	自立支援給付 1,172人 地域生活支援 1,041人	自立支援給付 1,340人 地域生活支援 1,230人	利用者に対し、福祉制度やサービス提供の仕組み、サービス事業者の情報などを周知し、利用しやすい環境を整え、継続して事業を実施する。	生活福祉課	第2次十和田市総合計画第1期実施計画関連事業目標値の値は、H33の推計値とし、参考データとして記載
89				重度心身障害者等に対する支援	重度心身障害者とその家族等を支援するための事業を実施する。	重度心身障害者とその家族等を支援するため、重度心身障害者医療費の助成を行う。 また、重度心身障害者医療費助成制度の手続きについて広報及びホームページで周知を行った。	人数 件数 助成額	733人 15,984件 58,756千円	5	24 (841人 18,191件 71,732千円)	757人 17,340件 64,415千円	750人 17,000件 62,000千円	当該医療費助成制度について継続して実施する。	生活福祉課	目標値の値は、H33の推計値とし、参考データとして記載
90				障害者に対する相談体制の充実	障害者が地域で安心して生活できるように身体障害者相談員、知的障害者相談員を配置し相談指導を行う。	身体障害者相談員8人、知的障害者相談員2人を配置し相談指導を行う。 ○障害者相談 84件(うち身体 45件、知的 39件)	相談件数	84件	4	24 (48件)	69件	80件	相談員の紹介を市広報へ掲載し、相談者が相談しやすい体制を整備するとともに、必要とする方への相談支援を継続して行う。	生活福祉課	
91				手話通訳者の派遣	聴覚障害者の社会参加を促進するため、手話通訳者を派遣する。	聴覚障がい者が支援を必要とする際に、手話通訳者の派遣等を実施した。 ○手話通訳者の派遣 44回(うち県外派遣 13回) 内訳 リハビリ 19回、通院(医科) 16回、子の学校に関すること、訪問看護(各2回) 通院(歯科)、ワークショップ、通夜、講習、サービスに関する会議(各1回) ○手話通訳者の対応件数 874件	手話通訳業務件数	44回 874件	5	24 (62回 995件)	49回 995件	60回 1,100件	支援を必要とする聴覚障がい者に対し、引き続き手話通訳者の派遣を行う。	生活福祉課	
92				精神障害者への日常生活支援	精神障害者に対する在宅福祉サービスの充実を図り、相談対応や家庭訪問を通して、日常生活支援を行い、自立と社会参加を促進する。	精神科医による「こころの相談事業」を年5回実施した。 また、電話や来所での相談対応や家庭訪問を行うことにより、精神障害者の治療の継続や再発防止、社会復帰を支援した。 ○こころの相談事業 5回(6件) ○訪問指導 37人(延154件) ○電話・面接 222件	相談件数	382件	4	24 (396件)	387件	406件	引き続き、精神科医によるこころの相談を年10回実施する。 また、精神障害者に家庭訪問や電話相談を行い、治療の継続や再発防止、社会復帰を継続して支援する。	健康増進課	
93				就労継続支援	障がい者の就労を支援するため、通常の事業所に雇用されることが困難な障がい者に就労に必要な知識及び能力の向上を支援し、雇用の機会を提供する。	障がい者に就労に必要な知識及び能力の向上を支援し、雇用の機会を提供した。 就労継続支援事業 A型…雇用契約に基づく支援 15人/月(年間延190人) B型…雇用契約に基づかない支援 230人/月(年間延2,770人) ※うち新規雇用 B型利用者 1人 A型利用者 1人	新規雇用件数	2件	4	24 (3件)	1件	3件	B型からA型への新規移行について、目標達成に向け継続して取り組む。	生活福祉課	第2次十和田市総合計画第1期実施計画関連事業(参考) 第2次十和田市総合計画【成果指標】 就労継続支援利用者数【目標値】400人
94				高齢者就業機会の確保	高齢者の社会参加や生きがいの場づくりを促進するとともに、就労機会の充実を図ることを目的として、シルバー人材センターの運営を支援する。	高齢者の社会参加や生きがいの場づくりを促進するするとともに、就労機会の充実を図るため、シルバー人材センターの運営に対し、補助金を交付した。 また、新規会員の募集について、市の広報等により周知を図った。	会員数	446人	3	29	453人	460人	新規会員の募集について、市の広報等によって周知を図る。	商工労政課	第2次十和田市総合計画第1期実施計画関連事業

第2次十和田市男女共同参画社会推進計画後期実施計画 平成29年度における進捗状況(基本目標IV)

No.	基本目標	重点項目	施策の方向	平成29年度における事業の実施状況及び評価						参考値 (28年度)	目標値 (33年度)	次年度の方策	担当課	備考	
				事業名	内容	実施状況(実績)	指標名	現状値	達成度						指標設定年度
95	IV 健康で充実した生活づくり	3 自立と安定した生活への支援	1 高齢者や障害者等の自立支援体制の充実	在住・滞在外国人への子育て支援	外国語による各種情報を提供するほか、市内に在住・滞在する外国人が安心して暮らし活動するための支援をする。	市内に在住・滞在外国人の妊婦に対し、外国語版の母子健康手帳を交付した。 ○外国人に対する母子健康手帳交付 2回	外国人に対する子育て支援の周知回数	2回	4	29	2回	3回	母子健康手帳(外国語版)の交付を継続して実施するほか、外国人ママが孤立しないように、妊婦訪問での個別支援や、ほっとマミーサロンの事業を紹介する。通訳が必要な場合は、国際交流協会を紹介する。	健康増進課	
96				在住・滞在外国人への情報提供	外国語による各種情報を収集提供し、市内に在住する外国人が、安心して暮らし活動するための支援をする。	外国語の資料を積極的に収集し、特に外国語辞典・洋書コーナーの充実を図った。 ○収集した図書 21冊	蔵書冊数	460冊	4	24 (350冊)	439冊	489冊	洋書・原書の一般流通図書が少ないため、なかなか収集するのが難しいが、利用拡充を図るため、今後も図書収集に努める。	市民図書館	
97		2 ひとり親家庭等生活上の困難に直面する家庭への支援	ひとり親家庭等に対する支援の充実(医療費給付・学習支援)	ひとり親家庭等の福祉の増進を図ることを目的として、サービスの情報提供を行い、医療費の負担を軽減するために一部負担金を給付するとともに子どもたちの学習支援会等の活用を促進する。	ひとり親家庭等の医療費の負担軽減を図るため、医療費の助成を行った。 また、ひとり親家庭等の子どもを対象とした学習支援会を年25回開催した。 ○ひとり親家庭等医療費給付事業 児童 対象者 1,231人 給付件数 15,754件 給付額 31,373千円 親 対象者 860人 給付件数 7,052件 給付額 20,819千円 ○十和田市子ども学習支援会 25回開催 受講者 延183人	ひとり親家庭等医療費給付件数、学習支援会受講者数	児童 15,754件 親 7,052件、延 183人 (25回開催)	4	24 (児童 16,896件、親 6,591件)、 29	児童 14,870件 親 7,398件	児童 16,300件 親 7,400件、延 200人 (25回開催)	引き続き、ひとり親家庭への医療費の負担軽減を図るため、現行制度の維持に努める。 また、学習支援会については、引き続き事業の周知を行い年25回開催する。	こども子育て支援課	第2次十和田市総合計画第1期実施計画関連事業 目標値の値は、H33の推計値とし、参考データとして記載	
98				ひとり親家庭に対する支援の事業(訓練給付金事業)	保護者に対する就労支援を行うことにより、ひとり親の家庭の福祉の増進を図ることを目的として、教育訓練講座や資格取得のために養成機関で修業する場合に給付金を支給し、ひとり親家庭等の経済的自立及び生活の安定を図る。	ひとり親家庭の保護者が行う教育訓練講座や資格取得のために養成機関で修業する場合に給付金を支給し、就労支援を行った。 ○自立支援教育訓練給付金事業 6件 ○高等職業訓練促進給付金事業 4件(うち資格取得 2人)	給付件数	10件	5	29	0件	10件	ひとり親の家庭の福祉の増進を図るため、制度を現状のまま継続し、制度の周知に努める。	こども子育て支援課	新規事業 第2次十和田市総合計画第1期実施計画関連事業
99				就学援助事業	経済的理由により就学困難と認められる児童生徒に対する学用品等の援助を行い、保護者の負担軽減を図る。	経済的理由により就学困難と認められる児童生徒に対し、学用品等の援助を行い、保護者の負担軽減を図った。 ○支援対象者 小学校 450人、中学校 266人 【援助内容】 学用品費、通学用品費、新入学児童生徒学用品費、校外活動費 修学旅行費、医療費	支援対象者数	小学校 450人 中学校 266人	4	24 (小学校 489人、中学校 337人)	小学校 460人 中学校 290人	児童・生徒の数は減少しているが、家庭の所得が減少傾向にあり、就学援助を受ける児童・生徒の比率は年々増加していることから、引き続き援助が必要な家庭への支援を行う。 支援対象者が申請を逃すことのないよう、制度の周知に努める。	教育総務課		
100				生活保護者に対する支援	生活保護の適正実施に基づき、生活困窮者に対し、生活保障と自立を支援する。	生活困窮者に対し、就労支援プログラムを活用して、就労支援員等による自立への支援を行った。 ○生活保護の動向(H30.3月末現在) 被保護世帯 1,002世帯(うち母子世帯15世帯) 被保護人員 1,159人(うち母子世帯人員42人) 就労により保護廃止 6世帯(うち母子世帯1世帯)	保護件数・自立支援件数	被保護世帯 1,002世帯 被保護人員 1,159人 6世帯の自立支援	4	24 (被保護世帯832世帯、被保護人員 1,030人、4世帯の自立支援)	被保護世帯 937世帯 被保護人員 1,113人 3世帯の就労支援	被保護世帯 1,100世帯 被保護人員 1,280人 3世帯の就労支援	引き続き、担当ケースワーカー及び就労支援員がハローワークと連携し、就労先の紹介を積極的にを行い、自立に向け支援を行う。 また、ひとり親世帯(母子世帯)に対しては、家庭相談員等、関係機関と連携し悩み相談など、家庭の見守りを行い生活の安定を図る。	生活福祉課	
101		生活困窮者自立支援	生活困窮者の実態に応じた指導及び援助を継続的に実施することにより、経済的・社会的な自立を目指すことを目的として生活困窮者の就労支援を強化するとともに、相談・支援体制を充実により困窮状態からの自立を促進する。	生活困窮者からの相談に対し、生活困窮者自立相談支援員、就労支援員を配置し、ハローワークとの連携など相談支援・就労支援を実施した。 ○就労支援対象者 17人 生活困窮者の自立支援 8人 就労 増収率 47.1%(8人/17人) ○新規相談受付件数 49件	就労・増収率	47.1%	3	27 (35.0%)	44%	70%	引き続き、生活困窮者の自立促進を図るため、相談支援や就労支援を実施する。 そのほか、離職により経済的に困窮し、住宅を喪失するおそれのある方などに対し、家賃相当分の住居確保給付金を有期で支給することにより、住宅及び就労機会の確保に向けた支援を実施する。 また、民生委員や社会福祉協議会、ハローワークと連携しパンフレットの配布など制度の周知に努める。	生活福祉課	第2次十和田市総合計画第1期実施計画関連事業 【国の目安値】就労・増収率(就労・増収者/就労支援対象者):70% 【参考】 第2次十和田市総合計画第1期実施計画【成果指標】 就労プラン作成者の就労・増収率【目標値】42%		